

【校訓】	【教育目標】	【育成したい生徒像】
学 べ 優しく 遅しく	社会で生きて働く力を身に付け、 自分の力で遅しく未来を切り拓き、 地域の創造に貢献できる人の育成	・社会的自立のための目標を持ち、主体的・協働的に深く学び行動する生徒 ・地域に愛着を持ち、自他を尊重し、思いやりの心を持つ生徒 ・生命を大切にし、心身を鍛え、自信と根気を持って生きる生徒

【身につけさせたい資質・能力】

学 べ <思考力・判断力> ◎基本的知識・技能 ◎課題発見・解決力 ◎言語能力

優しく <想像力・表現力> ◎協働性 ◎自他尊重 ◎多様性の理解

遅しく <主体性> ◎意欲・実行力 ◎責任・使命 ◎健やかな心身

教育活動の重点課題

領域	中期目標	短期目標	目標達成のためのチェックリスト
学習教科指導	○基礎・基本の定着を図り、社会で生きて働く力につながる学力の育成	○生徒、地域の特性を活かした教育課程の実施 ○基礎学力と学習意欲向上のための工夫改善 ○ICTの活用等による多様な授業形態の工夫と観点別評価の充実	□授業と家庭学習との連携を図った効率のよい授業展開が実現しているか。 □主体的、対話的で深い学びを実現する観点別評価に基づいた多面的な評価の実践がなされたか。 □学習者の面白い、できた、わかった、好きになったという評価を導く授業の工夫がなされたか。 □ICTの活用により遠隔授業、授業改善等が図られたか
生活・生徒指導	○自己を律し、自他を尊重する心や、主体的な生活態度の育成	○基本的生活習慣の定着 ○主体性の育成 ○望ましい人間関係づくり ○特別支援教育の充実	□自発的な挨拶や集会等での挨拶が実践されたか □生徒ができることは生徒に任せる指導により、生徒の自尊感情や自己有用感を醸成できたか □自他を尊重する姿勢の育成により、いじめが起こりにくい環境を作ることができたか。 □特別な支援が必要な生徒に対する実効性のあるサポート実現のため、サポート委員会の機能の充実が図られたか。
進路指導	○目標を掲げ、ねばり強く進路実現に向かう力の育成	○体系的キャリア教育推進 ○全体計画の改善 ○基礎学力の向上 ○在り方・生き方に基づく進路希望の形成	□「ソムリエカ」の意図の浸透を図るとともに、教育課程を横断するキャリア教育が推進されたか。 □自己理解と社会理解を計画的に推進し、自己と社会の結びつき方を体験的に理解する全体計画の改善ができたか。 □キャリア・スタディの時間を有効に機能させ、基礎基本の定着を図ることができたか □キャリアパスポートやポートフォリオを活用し、自己の資質・能力に係る客観的な認識を深めるなど進路指導に役立てることができたか。
健康安全	○生命を大切に、心身を鍛え、自信と根気を持ち生きる力の育成	○防災、安全教育の充実 ○健康教育の取組の充実 ○環境美化意識の高揚と清掃奉仕活動の充実	□生徒が主体的に身の回りの防災・安全についての課題を見つけようとする指導ができたか。 □生徒が主体的に美化・奉仕活動を企画、運営する姿勢を形成させる指導ができたか。

学校経営の重点課題

領域	中期目標	短期目標	目標達成のための評価の観点
信頼される学校づくり	○教育活動の工夫・改善 ○教育活動の発信	○学校評価の内容の充実 ○情報発信による学校理解の推進	□学校評価が適切に行われ、改善に生かされたか。 □ホームページや学校だよりを活用し、保護者や地域に情報発信が効果的に行われるとともに、連携した関係機関等からの学校理解の促進が図られたか。
組織運営	○学校課題の明確化・共有化 ○組織的協働体制に基づく課題解決	○マネジメントサイクルの効果的な推進 ○報告・連絡・相談の徹底 ○危機管理体制の徹底 ○働き方改革の推進	□学校教育目標の実現に向けた組織運営の目標設定と評価、改善という道筋が浸透したか。 □必要な情報が共有され業務がすすめられていたか。 □マニュアルの見直し、共通認識、活用に対応していたか。 □勤務時間縮減のための業務の整理、合理化や、定時退勤年休取得の取組が実践されたか。
教職員の資質向上	○専門性と資質能力と指導力向上 ○服務規律の保持 ○健康の保持増進	○授業力、生徒指導力向上 ○校内外の研修等の充実 ○服務規律と法令の遵守 ○健康管理体制の充実	□単元配列票を活用するなど、目指す資質・能力を明確にした授業、行事の運営が実践されていたか。 □授業改善を図るとして、生徒の変容が見られたか。 □不祥事防止講話は定期的に行われたか。 □教職員の生活の豊かさなど質の向上が図られたか。
連携事業	○コンソーシアムによる連携事業の推進	○余市養護学校との合同カリキュラムの編成と実施	□就業支援に資する連携実習の実施、 □バリアフリー農園（コンテナ）の設置により成果の検証ができたか □ワインの製造・販売、エディブルフラワーを活用した6次産業化の理解、養護学校生徒とのコラボレーションが図られたか